

# 建まちセミナー2022 in 茨城

主催 新建築家技術者集団

2022年9月10～12日

## 豊かさ再構築

新建築家技術者集団が毎年開催していた「建まちセミナー」は、新型コロナウイルス感染拡大の元で集まることができませんでしたが、今年は3年ぶりに茨城でおこないます。

茨城は、広大な平地と豊かな水、地の利点によって、国のエネルギー政策の一環として首都圏へ電力供給と、食糧の供給基地の重要な役割を果たしつつ、原子力開発、鹿島臨海工業開発、筑波研究学園都市開発などの大規模な開発がおすすすめられてきました。

その一方で、東日本大震災を受けて原子力政策の見直しが迫られ、ウクライナへのロシア侵攻に端を発する世界的エネルギー供給の不安定化、コロナ禍での流通の滞りによる中国産業資本に頼る生産構造の脆弱性など、日本社会は大きな岐路に立たされています。

今こそ、これまでの開発信奉を脱し、持続可能な生活、暮らしを基本とした建築・まちづくりのあり方を見つめることが求められています。

セミナーを通じて、改めて日本のエネルギー政策を根本から見直すとともに、サステイナビリティな生き方、暮らし方を実践されている岩崎駿介氏の自邸「落日荘」を訪問し、現代における豊かさとは何か、未来に向けた新たな価値観を学び、見つける場としましょう。

### ■PREセミナーIN水戸 協賛企画BY 一般社団法人エコハウス研究会

9月10日(土) 見学会会費5000円(入館料含む) セミナー会費2000円

13:00～14:00 水戸偕楽園 水戸市見川1-1251 JR常磐線「水戸」駅より偕楽園行きバスで約20分

14:30～15:00 茨城県立歴史館 水戸市緑町2-1-15 歴史館偕楽園入口下車徒歩約2分

広大な敷地内に移築復元された、江戸時代の農家建築や明治時代の洋風校舎は必見。実際に建物内を見学することもできます。また、樹木や自然も多いので、季節の移ろいを感じながらゆったりと散策するのもおすすめです。

15:30～17:00 徳川ミュージアム 茨城県水戸市見川1-1215-1 JR常磐線「水戸」駅よりバス4番のりば 茨城交通バス3または37系統「見川2丁目」停下車、徒歩約5分

19:00～20:30 丸谷博男の全国セミナー

「持続可能な社会における建築と暮らしのあり方～身近な健在とエネルギーでつくる住まい」

### 9月11日(日) 入館料各自負担・散歩

9:00～12:00 歴史散歩

弘道館 水戸市三の丸1-6-29 JR常磐線「水戸」駅より徒歩約8分

「弘道館」は、天保12(1841)年に水戸藩第9代藩主徳川斉昭公が設立した当時における日本最大級の藩校。幅広い分野の武士教育を行っており、近世日本の教育遺産群として日本遺産に登録されました。さらに、正門、政庁、至藩堂は、重要文化財に指定されています。

水戸城址 水戸市三の丸 JR常磐線「水戸」駅より徒歩約5分

国内最大級の規模を誇る土造りの城として知られた水戸城の跡地です。今も残る空堀や本丸・二の丸・三の丸の土塁、お堀、藩校弘道館、薬医門などを見ることができ、当時の姿を偲ぶことができます。

### ■建まちセミナーIN水戸 企画 新建築家技術者集団

9/11(日) 講演会 開場 13:00 会場:茨城県立青少年会館・大研修室 (水戸市緑町 1-1-18)

13:30～13:45	開会のあいさつ	片井克美 (新建全国幹事会議長)
13:45～15:15	「原発ゼロ社会の議論をはじめよう」	乾 康代 (新建全国代表幹事)
15:30～16:30	「“集住空間”のあり様を問い直す	藤本昌也 (新建全国代表幹事)
16:30～16:45	交流会・視察などの案内	

18:30～夕食・交流会・宿泊 ホテル・ザ・ウエストヒルズ・水戸  
水戸市大工町 1-2-1 シングルルーム (禁煙) (朝食込み)

9/12(月) 視察

大型バスで巡る茨城 (定員 45 名 - 講座と関連した視察です。バス視察のみの参加はできません)

茨城県営会神原アパート (現代計画・藤本昌也氏, 水戸市), 東海村, 落日荘 (岩崎駿介氏, 石岡市)

参加費 ① 講座/夕食・交流会/宿泊～12日バス視察 22,000円

② 講座/夕食・交流会/宿泊 16,000円

③ 講座/夕食・交流会 8,000円

④ 講座のみ参加 1,500円 (東海村村民の方は無料)

夕食・宿泊を伴う参加 (①～③) のキャンセルは、8/25まで それ以降はキャンセル料金が発生します。

■PREセミナーIN水戸の申し込みは、・・・ ■建まちセミナーIN水戸の申し込みは、<https://nu-ae.com/>

江戸の暮らしから  
明治の暮らし  
そして  
大正の暮らしがあり  
昭和の暮らしがあった  
さらに  
平成の暮らし  
いまは  
令和の暮らし

そこには  
なんとか痕跡も残され  
身近に感じることができる  
300年の暮らしがあった  
子供の頃には  
一世代は20年と教わった  
しかし、今は30年と長寿になっている  
30年×10倍=300年

## 日本の伝統的な暮らしは 地球と共生していた

その300年前から始まった産業革命  
その産業革命後によって何が起きたのか。

薪と木炭の火から蒸気が作られ 蒸気機関が発明され  
た  
さらに火力のある石炭・石油へと燃料は変わって  
いった

その結果、地球上の二酸化炭素は急激に増大した

地球の温暖化は急速に進み、深刻な気候変動・地球  
温暖化を招くことになったのである

ここで改めて、日本の先人たちが歩んできた作法・  
知恵に着目することが大変重要なことであることに  
気づく

たたむ・しまう・ほぞんする・室名ではなく間とい  
う概念が多目的/転用を享受する

持続可能な住まいと暮らしのヒントがここにある

主催 エコハウス研究会  
<https://navi.ecohouse.ac/>

講師 丸谷博男 一般社団法人エコハウス研究会代表理事

2022年 9月10日 sun 18:30~20:00 水戸市 会費2000円、学生無料

申込先 <https://ws.formzu.net/fgen/S75519222/>

会場 茨城県立青少年会館小研修室 住所・水戸市緑町1-1-18

参考資料 ◆会報「そらどま」2022年春号 <http://data.ecohouse.ac/data/newsletter-2022-spring.pdf>

## エネルギー危機が伝える脱輸入エネルギーは 自然エネルギー活用の住まいと暮らしを求めている

○ ZEH住宅は、中国とロシアが世界の過半を占めるシリコンウエハーに  
依存している危険がある、改めて国産・自然エネルギー活用の技術を探  
り入れよう

○ エネルギーフリー、カーボンニュートラルは、ロシアフリー、中国フ  
リーから！始まる！

○ 「もったいない」という住宅作りは、数寄屋建築にあった！ その代  
表格が桂離宮！「粗末な木材」を粗末に扱うことなく美学にまで高めた  
先人の心が「持続可能な社会の心」に通じていた！

○ 1970年代後半から継続して取り組んできたソーラーシステム、OM  
ソーラーを転換して創り上げたハイブリッドソーラーシステム  
「soradomaの家」技術を公開伝授します！

○ 環境共生住宅の試み、1993年 ひまわりの家（北九州）、2013年 エコハウス北九州（北九州環  
境ミュージアム内）、長久手の家（愛知県）春日部の家（埼玉県）、さいたま市の家（埼玉県）ほか  
保育園、高齢者施設、事務所なども取り組んでいます。

